コープのなかま

ひざかけに被災地への想いを込めて

組合員さんの「被災者の方に暖かい冬を過ごしていただきたい」という想いから、東日本大震災発生以降、組合員さん手作りのひざかけを被災地にお送りしてきました。今回は、ひざかけ作りにご協力いただいた方の中から、宇部地域の組合員さんにお話を伺いました。

※東北支援に関する報告（6～7ページ）も併せてご覧ください。

分野ネットの活動とひざかけ作り

岡本さん、石本さん、秋本さんは、平和分野ネット「青い空」のメンバーで、活動の一環としてひざかけ作りに取り組まれてきました。

「分野ネットでは、ひざかけ作りをはじめ、講師を招いた平和交流会の実施、ピースフォーラムの取り組みへの参加などの活動をしています。もともと被爆者の方へ贈るひざかけを作成してきましたが、2012年度からは東北の被災者の方にもお届けできることを聞き、少しでも気持ち良く生活ができるようお手伝いができればという想いを込めて、ひざかけや肩かけ、お手玉やサシェを作成してきました」。

▲県内各地から集まったひざかけ。

▲「青い空」の皆さんが作成したひざかけや小物。

石本さんは、手芸の腕を活かして東北の漁業で使われる網の修復作業にも携わったことがあるそうです。「ひざかけは、毛糸を提供してくれる人、編む人、つなげる人、必要としている場所に運んでくれる人、様々な人が関わっています。ひざかけ作りから実感した人とのつながりに感謝して、これから他にできることがあったらやっていきたいですね」。

つながる支援と心の輪

「コープでは生協まつりなどのイベントで、被災地の方が作った手作り品の販売もあり、そこで組合員同士のつながりを感じることができましたし、支援方法を知る場があって良かったと思いました。遠く離れた地でも、被災地に同じ生協の組合員さんがいるんだと思うと身近に感じますし、支援方法がわかるとできることも考えられます。また、ひざかけを受け取られた方からお礼状が届くなど、応援した先のことが形に見えるから安心でした」と岡本さん。

秋本さんは、震災が起こってから、人と喧嘩別れをしないように意識するようになったとのこと。「その時の過ごし方を考えるようになりましたね。例えば、孫が『行ってきます』と言ったとき、自分が台所にいても何をしていても、手を止めて顔を見て『行ってらっしゃい』と送り出すとか。日常にいつ何が起こるか分からないから、後で悔やむような別れ方はしないようにしています」。

▲2019年生協まつり
東北支援ブースの様子。

▲2012年の募金ブースでは、手作りの楊枝入れを設置。

あの日思ったことと これからのこと

当時、テレビで被災地の様子を見て衝撃を受けたという石本さんは、ある日「心まではは流されてはいけない」と書いてある記事を見て、「あんな状況だと流れてしまってもおかしくないと感じました。だからこそ、自分たちが小さなことでも、できることを続けていくことが大切なのではないでしょうか」と語ってくれました。

「震災から10年経ち、正直言うと毎日意識することはなくなったように思います。だけど、ひざかけは1年かけて作り上げるので、被災地のことを考え続けることができました。最近は節目と言う言葉を耳にすることが多いですが、終わりにせず、支援を続けていきたいと思います。『FUCCO』（7ページ参照）を分野ネットのメンバーみんなに紹介し、みんなで何か買いたいと考えているところです。これからも、被災地に心を寄せ続けて行きたいです。」

▲左から岡本和江さん、石本恭子さん、秋本和美さん。

COOP LETTER 2021 5
発行●生活協同組合コープやまぐち　〒753-0872　山口市小郡上郷901-21　TEL.083-995-3600　FAX.083-995-3711　ホームページアドレス https://yamaguti-coop.or.jp
編集●組合員活動グループ　TEL.083-995-3607　FAX.083-995-3712　フリーダイヤル 0120-27-5520　Eメール info@yamaguchi.coop